

## 第550回: 中国を分類すると

右にあるのが中華人民共和国地図であり、これを中国式行政区分で整理すると次のようになる。

- 2 特別行政区＝香港、マカオ
- 23 省＝ 黒龍江、吉林、遼寧、河北、山西、山東、江蘇、浙江、安徽、江西、河南、湖北、湖南、福建、台湾、広東、海南、陝西、甘肅、青海、四川、貴州、雲南)、
- 4 直轄市＝北京、天津、上海、重慶
- 5 自治区＝内モンゴル、新疆ウイグル、チベット、寧夏回族、広西チワン族

合計すると2+23+4+5=34の省・市・自治区となる(中国は懇切丁寧に台湾まで数えている)が、この34行政区をエリア別に分類すると、こうなる。

- 華北(北京、天津、河北、山西、内モンゴル)
- 華東(上海、山東、江蘇、浙江、安徽、江西)
- 華中(河南、湖北、湖南)
- 華南(福建、台湾、広東、海南、広西チワン族、香港、マカオ)
- 東北(黒龍江、吉林、遼寧)
- 西北(陝西、甘肅、青海、寧夏回族、新疆ウイグル)
- 西南(四川、貴州、雲南、重慶、チベット)

ここで気になるのが、7エリアの内の4か所に華北・華東・華中・華南と、「華」が付されている点だ。「華」とは云うまでもなく「中華」の意であり、中華文化の発祥地である黄河の中下流の平原のこと。

いにしえの中国人は漢民族の住む地こそが「中華」の地であり、その外側は東夷・西戎・南蛮・北狄などの野蛮人(四夷)が住む化外の地と主張してきた。中華の東部を流れる黄河や淮河のデルタ地帯には、漁業と農業で生活を立て、河川と湖沼を舟で往来する東夷が、南部の山岳地帯には、焼き畑農耕の農民が住んでいた。西部の草原地帯には羊と暮らす遊牧民がいて、北部の森林地帯には狩猟民族がいた。

だからこそ辛亥革命のスローガンは、「驅除韃虜、恢復中華、創立民国、平均地権」、つまり満洲民族(清朝)を驅除し、中華を取り戻し、民国を創設しようであったのだ。

つまり、中国はいまでも「華」の付く漢民族の地と、異民族が多く住む北狄もとい東北、西戎もとい西北、南蛮もとい西南の地を区別していると考えるのは、ゲスの勘繰りでしょうかね。

古いハナシはこれくらいにして、新中国が誕生した1949年以降のこと。当時の中国にとって頼りになる友好国はソ連のみだったが、50年代後半から中ソ間の仲が陰悪化するようになり対立がイデオロギー、軍事、政治等の各分野で広がり、60年代には遂に軍事衝突まで発生、中国は東に米国、北と西はソ連、



---

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

南にインドと、東夷・西戎・南蛮・北狄ではないが四方を敵に囲まれる事態となった。切羽詰まった毛沢東は米ソとの核戦争に備え、全国の工業地帯をリスク度合いに応じ3分類し、工場のリストラを命じた。

仮に米国との戦争が始まると、①艦砲射撃で破壊されてしまう最も危険な沿岸部を一線とし、②艦載機からの爆撃を受け易い沿岸部付近の内陸を二線とし、③もし沿海部やその近辺の内陸部が壊滅しても、奥深くにあって敵が攻めにくい内陸部で抗戦できるよう軍需工場を移転/新設させたのが三線建設だ。

一線: 沿岸部(遼寧・河北・北京・天津・山東・江蘇・上海・浙江・福建・広東など)

二線: 中部(山西・河南・安徽・江西・湖南)

三線: 西部(陝西・湖北・重慶・四川・貴州・雲南)

大雑把に云えば、現在、北京—石家荘—鄭州—長沙—広州—深圳—香港を結ぶ「京港旅客専用線」が南北に伸びる二線エリアであり、その西が三線、東が一線というイメージかな。

三線を代表する都市といえば、西安(陝西省)、武漢(湖北省)、重慶などが挙げられ、毛沢東の怖れた戦争危機は通り過ぎて久しいが、これら元軍事工業都市は、西安が国防産業の民需転換により航空機、自動車等を中心とするハイテク産業都市として栄えているように、近年発展目覚ましい都市が多い。

中国の希望の都市は深圳だけではない。中国の光通信産業の発祥地であり、光ファイバー・ケーブルや光電子部品の生産、光電部品の研究開発等の基地を擁する「中国光谷(オプティカル・バレー)」武漢も、もともとは三線建設からテイクオフした軍需産業の要衝の地である。

最近日本でもマネー・ロンダリングやテロ資金供与対策の防御策として、まずは企業の営業部門が第1の防衛線を張り、それを管理部門が第2防衛線でサポートし、それでも敵が攻め込んできたときは、内部監査部門が第3の防衛線を死守するというリスク・マネジメントが脚光を浴びている。

第2次世界大戦に備え、フランスは独仏国境に鉄とベトンで固めた長大なマジノ要塞線(第一防衛線)を張ったが屁の突っ張りにもならなかった。フランスの防衛線は第1防衛線のみで、しかも独機甲部隊がマジノ・ラインを迂回してアルデンヌの森を突破したからだ。10年もかけ、長さ400キロを超える要塞線を作るとは恐れ入るが、どうも欧米の戦術は鋭いようで、間が抜けている。

企業が経営戦略の参考とすべきは毛沢東の唱えた持久戦的な軍事戦略ではないだろうか、彼の時代認識は相当ズレていたが、戦略家としてはいまでも通用する天才だ。(了)

文中の見解は全て筆者の個人的意見である。

2019年(令和元年)10月16日

## 筆者プロフィール

杉野光男

東洋証券株式会社 主席エコノミスト

一橋大学商学部卒、三菱信託銀行(現三菱UFJ信託銀行)入社、上海華東師範大学へ留学

同行北京駐在員、上海駐在員事務所長、理事中国担当部長を経て、2007年より現職

著書 日本<sup>の</sup>常識は中国<sup>の</sup>非常識(時事通信社)、中国ビジネス笑劇場(光文社)等

---

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3



## ご投資にあたっての注意事項

### 手数料等およびリスクについて

#### ①国内株式等の手数料等およびリスクについて

・国内株式等の売買取引には、約定代金に対して最大 1.2650% (税込み) の手数料をいただきます。約定代金の 1.2650% (税込み) に相当する額が 3,300 円 (税込み) に満たない場合は 3,300 円 (税込み)、売却約定代金が 3,300 円未満の場合は別途、当社が定めた方法により算出した金額をお支払いいただきます。国内株式等を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。国内株式等は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。

#### ②外国株式等の手数料等およびリスクについて

・委託取引については、売買金額 (現地における約定代金) に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額) に対して 最大 0.8800% (税込み) の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

・国内店頭取引については、お客さまに提示する売り・買い店頭取引価格は、直近の外国金融商品市場等における取引価格等を基準に合理的かつ適正な方法で基準価格を算出し、基準価格と売り・買い店頭取引価格との差がそれぞれ原則として 2.75% となるように設定したものです。

・外国株式等は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

#### ③債券の手数料等およびリスクについて

・非上場債券を募集・売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスクおよび為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

#### ④投資信託の手数料等およびリスクについて

・投資信託のお取引にあたっては、申込 (一部の投資信託は換金) 手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

・投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

#### ⑤株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

・株価指数先物取引には、約定代金に対し最大 0.0880% (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

・株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大 4.400% (税込み) の手数料をいただきます。約定代金の 4.400% (税込み) に相当する額が 2,750 円 (税込み) に満たない場合は 2,750 円 (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

・株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

### ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をご覧ください。

---

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。